

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## セントラル短資FX株式会社（証券コード：－）

### 【据置】

長期発行体格付  
格付の見通し

BBB  
安定的

### ■格付事由

- セントラル短資グループに属するFX業者。中長期目線でポジションをとる顧客が比較的多いため、口座数や証拠金残高の割には取引高が多くはないものの、預り証拠金残高などでみた事業基盤は業界で上位クラスである。資本水準も比較的高い。格付は、一定の事業基盤、健全な資産内容と財務基盤を反映するとともに、親会社であるセントラル短資（長期発行体格付「A-/安定的」）との結びつきに支えられている。他方、取引高が市況に左右されやすいという事業の性格と厳しい競合環境が収益の変動性を高めていること、業界内シェアの変動の可能性があることなどが、FX業界全体に共通する格付の制約要素となっている。
- 市場動向をみると、足元の店頭FX取引は活況で、FX業者の収益にプラスに働いている。22/3期の取引高はウクライナ問題、海外金利上昇などで為替相場の変動幅が拡大し、過去最高の水準を記録した。また、各国の金利上昇はスワップポイント収益の改善を後押しする要素になっている。しかし、近年の取引高は低迷することも少なくない。また、厳しい競合やカバー先のスプレッド拡大もあって取引通貨当り利益率への低下圧力は強く、安定的な収益の確保が容易でない状況が続くとみられる。
- 当社はメキシコペソを軸に新興国通貨に強いFX業者というブランドを構築し、取引高や収益を確保している。18/3期までは2期連続で営業損失を計上したものの、19/3期以降は黒字を継続している。競争力のあるスプレッドの提供やスマホでの利便性向上に加え、カバー取引の効率化、不適切な取引の検知・制限などの工夫も収益を支えている。一方、新興国通貨への収益依存度が高く、同業との価格競争が激しいことは潜在的なリスク要素である。また今後はシステム投資などで経費増が見込まれる。しかし、過去最悪の損失を3期連続で計上したとしても純資産で吸収可能であり、業績悪化に対しての耐性を有する。
- リスク管理については適切な状況にあるとJCRはみている。為替リスクは、顧客注文を受けてのカバー取引や、ポジション保有限度の厳格な管理などで抑制している。顧客の信用リスクは、強制ロスカット方式を採用することなどで抑制されている。過去の相場変動が拡大したイベントに際しても大きな貸倒損失は発生しなかった。システムにかかるオペレーショナルリスクについても適切に管理されている。
- 規制上の自己資本規制比率は22年3月末で1,152%と問題ない水準にある。規制上、営業継続に必要な自己資本規制比率120%に抵触するまでの資本の余裕度は、同業他社比で大きい。資金流動性の確保状況をみると、カバー先への差入証拠金は基本的に現預金と取引銀行とのLG（保証状）で対応できている。当座貸越枠の確保もあって、カバー取引に必要な流動性は十分に確保されている。

（担当）炭谷 健志・松澤 弘太

### ■格付対象

発行体：セントラル短資FX株式会社

### 【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	BBB	安定的

## 格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2022年8月22日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩  
主任格付アナリスト：炭谷 健志
3. 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「金融グループの持株会社および傘下会社の格付方法」(2019年3月29日)として掲載している。
5. 格付関係者：  
(発行体・債務者等) セントラル短資FX株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：  
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表  
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

### ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

### ■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

### ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

**株式会社 日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル